

競泳

日本選手権

競泳の日本選手権第4日は7日、世界選手権(7月・福岡市)代表選考会を兼ねて東京

ローHD)が女子200メートル平泳ぎを2分22秒98で制し、日本水連の選考基準を満たして17年大会以来6年ぶりに世界選手権の代表に入った。

男子の200メートル平泳ぎは渡

の武良竜也(ミキハウス)はとも代表切符を逃した。

後半追い上げ池江100自制す

を先ずる展開となる中、焦らずに自分のレースを貫いた。0秒25差で最後のターンを終えると長いリーチを生かした大きなストロークで伸び、逆転。世界選手権銀メダリストの花車が昨年の代表選考会でマークした2分7秒99を上回った。

が先行する展開となる中、焦らずに自分のレースを貫いた。0秒25差で最後のターンを終えると長いリーチを生かした大きなストロークで伸び、逆転。世界選手権銀メダリストの花車が昨年の代表選考会でマークした2分7秒99を上回った。

女子100メートル自由形は、100メートルバタフライで世界選手権出場を決めている池江璃花子

女子100メートル自由形は、100メートルバタフライで世界選手権出場を決めている池江璃花子

女子100メートル自由形決勝で優勝した池江璃花子

大分県出身で、福岡で開催される世界選手権への出場を待ち望んでいた。「誰よりも水泳を楽しんで、誰よりもきついことをやっていきたい」と夏に向かう。

花車代表落ち

3位「悔しい」

○男子200メートル平泳ぎで昨年の世界選手権銀メダリストの花車が3位で代表落ち。レベルの高いこの種目を象徴する結果となった。「代表に入れなかったのが悔しい」と表情をこわばらせた。

8位通過となった予選から思うようなレースができなかった。春先に体調を崩すなど、躍進した昨年のように万全の状態では臨めず「泳ぎの安定感や精度を上げていかないといけない」と出直しを誓った。

渡辺 返り咲き

男子200平 激戦制し代表入り

実力者がひしめき合った激戦の男子200メートル平泳ぎを制したのは、元世界記録保持者の渡辺だった。3年ぶりに頂点に立ち、復活を告げた19

3秒の大型スイマーは「また日本一の座に返り咲けたことはすごくうれしい」と、すがすがしい表情を浮かべた。

100メートルの折り返しで佐藤



男子200メートル平泳ぎ決勝＝優勝した渡辺一平



女子100メートル自由形決勝で優勝した池江璃花子